

留学報告書
～目に見える成長と見えない成長～

マキーワン大学
外国語学部（中期）

鮮明には覚えていませんが、留学を希望し始めたのは中学生の終わり頃、もしくは高校生の初めの頃だったと思います。その頃、特に英語が得意だったわけでも、海外の文化に特別な興味があったわけでもありませんでした。ただ、日本語以外の言語を話せることに特別感を感じ、かっこいいと思っていたことは覚えています。また、今振り返ると、NBA (National Basketball Association) や海外映画などもそのきっかけになっていたのだと思います。英語を本格的に勉強し始めたのは高校 3 年生の頃でした。本格的にと言っても、英語検定を受ける友達が多く、その影響を受けて私も英語検定の取得に励みました。進路を選択する際も、英語を話せることに強い憧れを抱いていましたが、将来やりたいことが見つからず、未来のビジョンが描けなかったため、外国語学部を選びました。大学に入学すると、授業やランゲージテーブルなどのプログラムを通じて英語に触れる機会が増えました。さらに、TOEFL の勉強をしていく中で、共に切磋琢磨できる友達ができ、英語への考え方が大きく変わりました。

私の留学への思いが大きく変化したのは、大学 1 年生の春学期でした。大学生活の中で、海外から日本に来ていた留学生と交流する機会が増え、彼らと話したり遊んだりする中で、初めて外国人の友達ができました。言葉の壁があっても意外とコミュニケーションが取れることに気づきました。しかし、私が高校生頃に抱いていた「英語を話す」という憧れは、実際には遠いものであり、思ったように自分の言いたいことが伝えられず、もどかしさや悔しさを感じました。このような経験を経て、大学 1 年生の秋頃から、英語に対する姿勢や留学への思いが大きく変わりました。

私はカナダのアルバータ州エドモントンにあるマキーワン大学に約 4 ヶ月間留学していました。カナダに到着した時、海外に初めて訪れた私は見慣れない街並みや様々な人種がいることに驚き、不安な気持ちもありました。しかし同時に、そんな場所で 4 ヶ月間生活できることに、とてもワクワクしていました。私が住んでいた場所は、都会でもなく、田舎でもなく、ちょうどその中間に位置していました。学校の周りには飲食店がいくつかあり、スーパーや 100 円ショップのようなお店も歩いて行ける範囲にあり、とても便利な立地でした。エドモントンの冬は非常に寒く、私が経験した最低気温は-20℃でした。そのため、スーパーなどが徒歩圏内にあったことは本当にありがたかったです。また、バス停や電車の駅も大学近くにあり、様々な場所へ行くことができました。さらに、大学の寮は教室まで徒歩 5 分と非常に近い場所にありました。寮に住むことを選んだ理由は、寮生活を

通じて友達ができやすいと考えたためです。実際、ルームメイトと仲良くなれたり、イベントを通じて他の学生と親しくなれたりすることができました。しかし、ミールプランがなかったため毎日自炊をしなければならず、またルームメイトとの価値観の違いから衝突することもありました。ポジティブに捉えると、それらの経験が自分の成長につながったと信じています。今振り返ると、ホームステイでホストファミリーと過ごし、ネイティブスピーカーが実際に使う英語を学べたことも良い経験だったと感じています。



私は、3つのESLのクラスを受講していました。1つ目は英語のリスニング・スピーキングのクラス、2つ目は英語の文法のクラス、3つ目はライティング・リーディングのクラスでした。各クラスには15人から20人ほどの学生が参加しており、韓国人、フランス人、メキシコ人、ベトナム人など様々な国からの学生がいました。また、年齢層もかなり幅広く、50代近い人もいました。授業は毎日9時半に始まり、各クラスの間に15分間の休憩を挟んで、13時50分頃にはすべての授業が終了しました。毎朝決まった時間に学校へ通う生活は、少し高校時代を思い出させるものでした。基本的に、クラスは毎日ありましたが、金曜日はオンラインでの授業や小テストが行われていたため、登校の必要はありませんでした。

授業初日を今でもはっきりと覚えています。教室に入った時は緊張していました。私が留学前にESLのクラスに対して抱いていた印象は、同じくらいの年齢の学生たちが集まって英語を勉強するというもので、みんなの英語力は同じように乏しいだろうと予想していました。しかし、クラスが始まり、自己紹介をした際、クラスメイトたちがスラスラと英語を話す姿を見て、彼らがなぜ英語の授業を受けているのか疑問に感じました。授業を通じて分かったことは、「彼らは文法を気にせずに話している」ということでした。授業中の私の目標は、「シャイにならず、自分から積極的に発言・行動すること」でした。留学前にラーニングアドバイザーの先生から「シャイにならずに自分から行動しないと、誰も助けてくれないよ」と言われ、それを意識していましたが、実際に行動に移せたのは留学

の中盤頃でした。自分の英語がどんなに拙くても、必死に伝えようとすることで、相手が親身に聞いてくれることを実感し、とにかく話すことが大切だと気づきました。

授業を担当していた2人の先生は、どちらも日本に1年以上住んでいたことがあり、日本に対して深い理解と好意を持っていたため、私たち日本人をよく理解してくれて、快適に授業を受けることができました。特に1人の先生は、私の地元の隣町に住んでいたことがあり、そのことをきっかけに地元トークで盛り上がりました。また、その先生は介護犬のトレーニングを行っていて、毎日授業に犬を連れてきていたため、海外の文化を感じることができました。日本ではそのような光景を見たことがなかったので、とても新鮮でした。

授業は基本的に私のレベルに合っており、特に大きな困難は感じませんでしたが、授業内でのディスカッションは最も大きな課題でした。いつもメキシコ出身の女性とフランス出身の男性と一緒に座っており、彼らは私よりも年上で、話す内容に深みがあり、レベルの高い英語で議論していたため、毎回ついていくのが大変でした。それ以外は、教科書に沿った授業が進められるので、特に困ることはありませんでした。



マキーワン大学ではいくつかのイベントがあり、特に印象に残っているのが「Fall Festa」です。秋学期が始まって2週間後に開催されたこのイベントは、学校のものとは思えないほどクオリティが高く、本物のフェスのような雰囲気でもとても楽しめました。規模が小さいだろうと予想していたので驚きました。2つ目は「サンクスギビング」です。カナダにはサンクスギビングの文化があることを留学前から知っていて楽しみにしていましたが、私が知っていたのはアメリカのサンクスギビングでした。カナダとアメリカでは開催時期が異なり、アメリカは11月末、カナダでは10月中旬に行われます。イベントでサンクスギビングのディナーをいただいた際、チキンやマッシュポテトにクランベリーソースをかけて食べたことがとても印象に残っています。いつかアメリカのサンクスギビングも体験してみたいと思っています。

私は「日本語クラブ」というコミュニティに週に一度参加していました。そこでは、日本に興味を持っている人が多く、様々なバックグラウンドを持つ人たちと交流することができました。日本の文化や歴史的な建物、アニメなどを題材にしたゲームが行われることがあり、その中で意外に自分が知らないことが多いことに気づき、さらに日本について学びたいという気持ちが強まりました。

休日には、「ウェストエドモントンモール」という大型デパートによく行きました。そこは北米最大級の広さを誇り、館内にはスケートリンクや遊園地、映画館、プールなどの娯楽施設が多数ありました。また、店舗数は 800 店舗以上で、日本との規模の違いを実感しました。さらに、「リーディングウィーク」という 1 週間の長期休暇を利用して、トロントに 2 泊 3 日の旅行に行きました。トロントの旅行では、ナイアガラの滝と NBA の試合を観に行くことが目的でした。ナイアガラの滝は非常に大きく、絶景でした。また、ナイアガラの周りにはおしゃれな町が広がっていて、私にとってはもっと滞在したかった場所でした。NBA の試合観戦は私の夢の一つであり、たとえ私の好きなチームの試合でなくても、夢の場所に行けたことは素晴らしい経験でした。その試合中に隣に座っていた男性と英語で会話し、仲良くなれたことで成長を感じることができました。トロントへの旅行は、私の人生で初めての一人旅でした。飛行機のチケットを取ったり、ホテルを予約したりするのは大変で、初めて見知らぬ場所に一人で行くのは非常に緊張しました。しかし、それは私にとって大きな経験となりました。



この留学を通じて、自分の成長を実感することができました。英語力が向上したのはもちろんですが、性格や考え方の変化については、友人や周囲の人から指摘されるまで自分では気づきませんでした。特に、「性格が明るくなった」と言われることが多く、とても驚きました。留学を通じて、本当に大きな変化が生まれるということを実感しました。留学中には不安なことやうまくいかないことも多々ありましたが、それらもすべて貴重な経験であり、今では良い思い出となっています。

最初は「英語で言いたいことを言えるようになりたい」という目標から始まった留学でしたが、大きな成長を遂げました。しかし、理想の英語にはまだ届いていません。今後も英語の勉強を続け、海外にも足を運び、人生をかけて理想の自分、理想の英語を目指していきたいと思います。留学は私にとって大きな決断であり、挑戦でしたが、これからも自分の責任で新たな挑戦をしていきたいと考えています。また、留学のために支えてくれた家族や先生、友人、先輩方に心から感謝しています。最終的に、私の人生は私自身のものであり、私が自分の道を選び、その決断に責任を持ちながら努力を重ねることが最も大切であることを学びました。

